

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

### 事業名 美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 152,944 千円 (前年度予算額： 135,408 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	135,408	35,637	0	21,731	0	0	1,000	0	77,040
要求額	152,944	37,885	0	35,019	0	0	3,000	0	77,040
決定額	152,944	37,885	0	35,019	0	0	3,000	0	77,040

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県美術館の収蔵品を展示する所蔵品展示、所蔵品による企画展、国内外の作品による多彩なテーマの企画展等を開催するための経費を措置する。

令和6(2024)年度は前年度に引き続き現代美術家の先駆的な芸術を紹介するクロスアート4をはじめ、岐阜市出身の神戸智行による太宰府天満宮襖絵展、国民文化祭の時期には恵那市ゆかりの洋画家・山本芳翠と岐阜県美術館コレクションを代表するオディロン・ルドン、同時代の日仏二人の作家の大規模回顧展を同時開催し、さらに岐阜県情報芸術大学院大学(IAMAS)との連携企画である「IAMAS ARTIST FILE」などを開催し、県民のニーズに応えると共に、コロナ禍社会のもと、新たな生活様式における美術館の重要性・必要性を広く伝える。

### (2) 事業内容

ア 所蔵品展示 展示室1にて展示替を行う。

	第1期	第2期	第3期
会期	4～6月	7～9月	R6. 1～3月
展示替	4/8, 4/15, 6/17	7/1-5, 9/9-26	12/23-1/6, 3/24-31

イ 展示室2の活用(独自企画展、巡回展)

① 安藤基金コレクション展(仮称)

令和6年4月16日(火)～令和6年6月16日(日) 54日間

② 神戸智行展(仮称)

令和6年7月6日(土)～令和6年9月8日(日) 56日間

- ③ アートまるケット（エを参照）  
令和6年9月27日（金）～令和6年12月8日（日） 63日間
- ④ 「IAMAS ARTIST FILE #10」展（仮称）  
令和7年1月10日（金）～令和7年3月9日（日） 52日間

ウ 企画展 展示室3他にて（巡回展、独自企画展）

- ① 「クロスアート4展」  
令和6年4月2日（火）～令和6年6月23日（日） 72日間  
（令和5年度、令和6年3月29日（金）から継続開催）
- ② 「PARARELL MODE: 山本芳翠が生きた時代」展（仮称）  
令和6年9月27日（金）～令和6年12月8日（日） 63日間
- ③ 「PARARELL MODE: オディロン・ルドン展」（仮称）  
令和6年9月27日（金）～令和6年12月8日（日） 63日間

エ アートまるケット事業

- ① アートまるケット2024展示事業（仮）  
令和6年9月27日（金）～令和6年12月8日（日） 63日間
- ② アートコミュニケーター（愛称「～ながラー」）活動事業  
令和6年4月～令和7年3月まで 事業継続  
令和6年11月～令和7年2月まで 次年度新規～ながラー募集事業
- ③ アーティスト・イン・ミュージアム【AiM】事業  
令和6年秋以降、1回開催  
・作家が美術館に滞在し公開制作と作品展示を行う。

オ 企画展準備費

- ・令和9年度事業「田口コレクション展」（仮称）のための作品調査。

カ 11月3日文化の日秋祭り事業の開催

（3）県負担・補助率の考え方

県民が等しく文化芸術に関わる機会を創出するものであり、県の負担は妥当である。

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,394	講師謝金
旅費	8,803	打ち合わせ旅費、研修旅費、講師旅費
需用費	19,258	展示用消耗品費、会議費、印刷製本費、光熱水費
役務費	3,431	通信運搬費、保険料
委託料	95,602	作品輸送展示作業、パネル等ディスプレイ作成他
その他	24,456	開催経費分担金、使用料、備品購入費等
合計	152,944	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）事業主体及びその妥当性

県有施設の主催事業に要する経費を措置するものであり、県の関与が妥当である。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。  
優れた芸術に触れて学ぶ機会を提供し、新しい文化の担い手を育成する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

### ○指標を設定することができない場合の理由

展覧会は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度ごとに開催本数や期間も異なるため、達成度を図るような基準数値は存在しない。

### （これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>新型コロナウイルス感染症による臨時休館を強いられる中、オンラインでの鑑賞やイベント等にいち早く取り組み、鑑賞者への新たなサービスの形を模索した。また、感染症対策を徹底して早期の開館が出来るよう努めた。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、美術館の展覧会を待ち望み楽しむ鑑賞者の姿が見られた。アフターコロナの新しい生活様式に配慮しながら、企画展の開催や関連イベントにおける感染症対策を行った。また継続して、県内教育機関、福祉施設等との連携を重視し、活動に生かした。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>開館40周年を記念して「前田青邨展」及び所蔵品による「岐阜県美術館名品尽くし！」を実施。重要文化財を含め多くの優れた美術品を鑑賞する機会を提供し、リニューアルで美術館の機能が上がったことを示した。またレジデンスや教育普及事業を通じて県内教育機関、福祉施設等と連携して活動した。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	美術館は県民のニーズに答えて美術品を展示し鑑賞の場を提供するところである。郷土ゆかりの美術家から国内外の著名な作家まで様々な視点から展覧会を行い、広く県民の要望に答えている。また、文化庁等が示す国の文化政策方針の点からみても、美術館が社会から求められる機能は年々広がっている。
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	コロナ禍を経て再び、人々が余暇を楽しむために積極的に外出するようになり、美術館の来館者も増加傾向にある。一定の感染症対策は残しつつ、対面の鑑賞・創作プログラム等を増やして来館者のニーズに答えている。また事業の一部オンライン化は引き続き実施され、遠方のため来館できない層へも配慮している。館外での出前講座やナンヤローネアートツアー、アートアクションについても実施先や数を増やし、参加者から好評を得ている。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	通常年間4本の企画展と8回の展示替による所蔵品展示を行う。常に新しい視点での展示紹介を心掛けるとともに、所蔵品の活用や、新聞社や企業の協力協賛を得て内容、広報共に充実させる努力を行っている。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> リニューアル後の拡張した展示室を通年でフル活動させるため、スタッフ総動員で事業を行っているが、美術館に要求される社会的機能は日々拡大しており常に人員の不足に悩まされている。また燃料の高騰による美術品輸送にかかる経費の増額は全世界的で問題となっており、さらに展示等にかかる人件費・資材費などを含め、経費が異常に高騰する状況は収束する気配が無い。これまでの水準を保つように展示事業を行うためには予算の充実が必須である。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

美術館の魅力を引き続き広く県民に周知するべく、現代日本画家が挑んだ歴史ある神社の襖絵展をはじめ、美術館が出発点から重要作家として調査研究してきた郷土ゆかりの山本芳翠とフランスのオディロン・ルドン、同じ師匠に学んだ二人の回顧展を国民文化祭にあわせて同時期に開催すると共に、30年以上にわたり基金により収集されてきた現代美術や所蔵品の特集展示を複数展開し、美術館コレクションの質の高さをアピールする。青少年美術展、高校総合文化祭、ぎふ美術展、国民文化祭等の県主催の事業に協力する。美術作品の紹介から作家の制作体験、アートコミュニケーターによるアートへの関わり方の新たな提案まで、新しい時代の美術館の幅広いあり方を提案していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	